



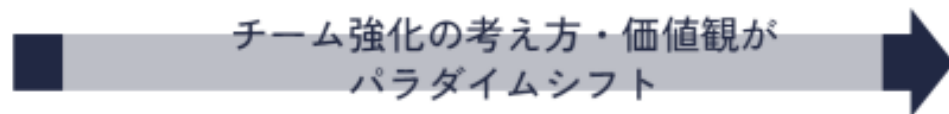
# スポーツを持続可能に！ スポーツ×企業の新形態



# 持続可能なチーム強化の三原則

## チーム強化の三原則

**平成**  
トップリーグ時代



**令和**

Mission

**人材**

**強化**

(人材・コーチング・環境)

勝ち

**コーチング**



**普及**

(情報発信)

価値

**環境**

**キャリア支援**

(人材成長)

## 気候変動によるスポーツへの影響は将来的な危機ではなく、 現在進行形の危機に面している

### スポーツ界への影響

- 平均気温上昇、猛暑日増加に伴うスポーツ実施による熱中症リスクの増加
- 平均気温上昇による積雪量の減少による雪質の劣化によるウィンタースポーツへの影響。  
人工降雪による環境負荷増加の問題。
- 豪雨などの自然災害発生数の増加により試合、大会の中止や延期 ※世界のサッカーでは、すでに15万試合が洪水により中止されており、25年後には毎年クラブ敷地の4分の1が浸水すると予測されている。
- オリンピックは気候危機を原因とする開催場所、実施時間に制約が生まれ、持続可能なグローバル開催に危機が及んでいる。  
(過去の冬季五輪開催都市のなかで再開催できるのは札幌（1972年開催）のみという研究報告も)

アスリートも気候変動について声をあげ始めている

# グローバルスポーツの現状と取り組み

## 欧州を中心に気候変動やESGの枠組みへ加盟し、戦略を明文化し評価指標の具体化が進行

### グローバルスポーツの現状と取り組み

- 欧州を中心にチーム、リーグ、競技団体の多くがスポーツを通じた気候行動枠組みに署名
- プレミアリーグのクラブは、政策とコミットメント、エネルギー、廃棄物、持続可能な交通、生物多様性を含む8つのカテゴリーにおける取り組みの証拠を提出するよう求められ、スコア化、ランキング化されている。
- UEFAがサーキュラーエコノミー・チェックリストを発表し、サッカーチーム向けのCO2排出量計算ツールも提供
- パリ五輪は史上最も環境に配慮した大会を目指している ◡過去大会比較で競技大会におけるカーボンフットプリントを50%にする ◡使い捨てプラの全面排除（ペットボトルの持ち込み禁止）

リーグや協会がイニシアチブを取り加盟チームの気候アクションを後押ししている

## 国際基準に準じて対応を進めるチームもある一方で、リーグや協会レベルの全体の推進には及んでいない印象

### 日本スポーツ界の対応や意識

- スポーツを通じた気候行動枠組に署名している 日本の団体は4団体のみ (JOC、アルバルク東京、群馬クレインサンダース、名古屋DD)
- GHG排出量の可視化、削減目標を示しているチームはわずか
- 気候変動対策 = コスト (工数や割高) というイメージで実施意向はあるものの 優先順位が上がらない
- 環境アクションを行うチームも増えているが、スポット的で持続性にかける課題も
- 大量生産、大量消費、大量廃棄を引き起こすプロモーション施策を行うケースもまだまだ散見

全体最適 < 個別最適 な側面が見受けられる

<価値の向上>

持続的なスポーツの発展を目指すうえで、

NTTドコモ×浦安D-Rocks

が気候変動対策をリードする存在へ



企業スポーツ2.0

ゲームチェンジやパラダイムシフト



## ラグビー界 “初” となる サステナビリティ宣言

### 重点テーマ

1. 気候変動対策
2. 循環経済
3. 自然環境保護

“One for **Society**  
**Society** for One”



# D-Rocks のサステナビリティ

数値化

数字に基づいた  
サステナビリティ活動

国際基準

国際的なスポーツチーム  
のサステナビリティ  
基準を準拠

共創

パートナーシップ  
によりチームを  
サステナのハブに

人材育成

ラグビー選手の  
キャリア育成

スポーツ界からサステナビリティをリードする存在に



# チーム活動におけるGHG（温室効果ガスの測定・可視化） 20240430



算定期間:2022年12月～2023年11月

※1:公式戦ホストゲームが対象

# チーム活動におけるGHG（温室効果ガスの測定・可視化） 20240430

上流



1: 購入した製品  
(原材料など)  
・サービス

7: 雇用者の通勤



4: 輸送・配送

その他

2: 資本財、3: Scope1・2に含まれない燃料  
およびエネルギー関連活動、5: 廃棄物、  
6: 出張、8: リース資産

**Scope3**

Scope1・2以外の間接排出  
(事業者の活動に関連する他社の排出)

※項目の前の数字はScope3のカテゴリ

自社



燃料の燃焼

**Scope1**

事業者自らによる温室  
効果ガスの直接排出  
(燃料の燃焼、工業  
プロセス)



電気の使用

**Scope2**

他社から供給された  
電気、熱、蒸気の使用  
に伴う間接排出

下流



11: 販売した  
製品の使用



17: 製品の廃棄

その他

9: 輸送・配送、10: 製品の加工、  
13: リース資産、14: フランチャイズ、  
15: 投資

**Scope3**

Scope1・2以外の間接排出  
(事業者の活動に関連する他社の排出)

来場者数

6,146人

オフセット総量

約25t-CO2

2024年3月30日 NECグリーンロケッツ東葛戦

# 参考) Jリーグの目標設定

Roadmap

## Jリーグ気候アクションのロードマップ

2024-25

意識が変わる



2027

行動が変わる



2030

社会が変わる

“気候変動とサッカーには深い関係があり、サッカーファミリーはその解決の力になれる。”

温室効果ガス

「Scope1,2」排出量と削減量を可視化

目指す状態

クラブがハブとなって地域資源(人・文化・自然)を活かしながら、再エネが広がり、自然環境保全・再生が進みはじめている(10クラブ程度)

サッカーファミリーとともに

サッカーファミリーが学ぶ場の深化・拡大

“地球とサッカーを守るため、カーボンニュートラルを意識した選択と行動がサッカーファミリーのスタンダードになる。”

温室効果ガス

「Scope1,2,3」排出量と削減量を可視化

目指す状態

クラブがハブとなって地域資源(人・文化・自然)を活かしながら、再エネが広がり、自然環境保全・再生が進みはじめている(30クラブ程度)

サッカーファミリーとともに

サッカーファミリー、地域のステークホルダーが連携を深め、行動・実践が加速する

“ホームタウン全てで、カーボンニュートラルと地域活性化を両立するための社会システム実現が進む。”

温室効果ガス

CO2排出量初年度対比50%削減

目指す状態

クラブがハブとなって地域資源(人・文化・自然)を活かしながら、再エネが広がり、自然環境保全・再生が進みはじめている(60クラブ程度)

サッカーファミリーとともに

様々なステークホルダーとともに、便利で環境に優しい仕組みづくりに向けて前進する

# 海外クラブとのパートナーシップ契約締結 2035・39 W杯アジア開催へ



# 共創によるサステナビリティ活動の推進

## Our Action

### 浦安 D-Rocks Sustainability Hub



浦安 D-Rocks の考えに賛同いただいたファン、企業、地域の皆様と共にラグビーを通じたサステナビリティの取り組みを推進するプラットフォームを構築いたします。



# (参考) サステナビリティ施策の一覧表と今後の取り組み

「社会に変化をもたらすクラブ」NSXのビジョンに基づき、サステナ活動を介した**チーム認知度向上**と**スポンサーへの新たなPR**を醸成。また、選手への積極的な介入を図ることで、**キャリア・事業支援策**としても活用したい。



参画団体	千葉県「SDG's パートナー」登録 デコ活推進/デコ活応援団登録	エリートエイトプログラムの参画 HERO's PLEDGEへの参画	漁網の資源循環に向けた取り組み マイクロプラスチック海洋流出 がんを治せる病気にするアクション
連携先	国・行政・親企業へのPR 千葉県、環境省、NTTグループ	スポーツ関連へのPR 協会・チーム15団体、アスリート	社会課題解決のPR 企業・PO法人35社
主な実績	ちばSDG's 名刺の作成（再生紙利用） 千葉トップチーム連携協議会 サステナ活動のプレゼンテーション デコ活トークセッション（公式戦会場） デコ活選手向け勉強会（3回）	各種団体と連携したニュースリリース 参画団体とのオンラインセッション	漁網スーツの制作企画立案 ピリカによるマイクロプラスチックの 基礎知識勉強会（2回） カボニューアンバサダー定例MTG参加 SNSでdeleteCの関連投稿
<b>NEW</b> 今シーズン 主な取り組み	千葉ジェッツ、ジェフ千葉市原との連携 試合会場におけるファンの行動変容の促し 選手考案の施策展開 デコ活応援団登録（選手2名）露出機会UP グリーン電力化（NTTグループ連携）	静岡ブルーレヴズとサステナマッチ企画 エリートエイト支援企業との連携 ・GHGの可視化、オフセット（無償） ・各種フォーラム・メディア等への参加	漁網スーツ着用プロモーション 人工芝を扱う各自治体（母校）講演 deleteCマッチの開催企画（要検討）



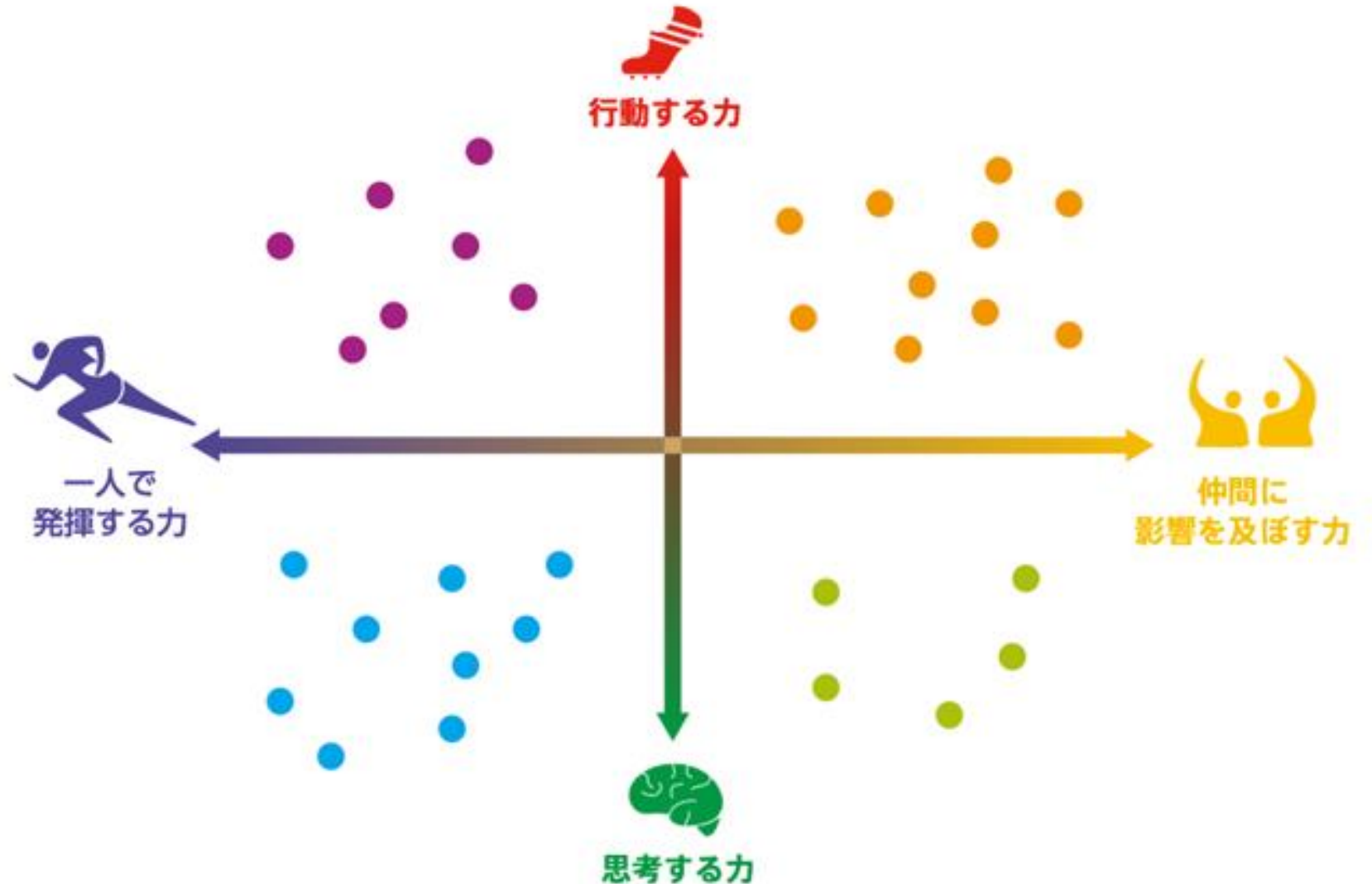
- ・ **D-Rocksサステナビリティハブ**を介して、**実績と今後の計画**に見える化（情報発信）
- ・ その他、有識者や関係各社とのクロストークなど**優良コンテンツの積極的配信**  
→認知度UP、スポンサーセールス、サステナ領域での社員育成、ファン×カボニューレコード拡販へ寄与



## 強みの抽出

### 能力マップ

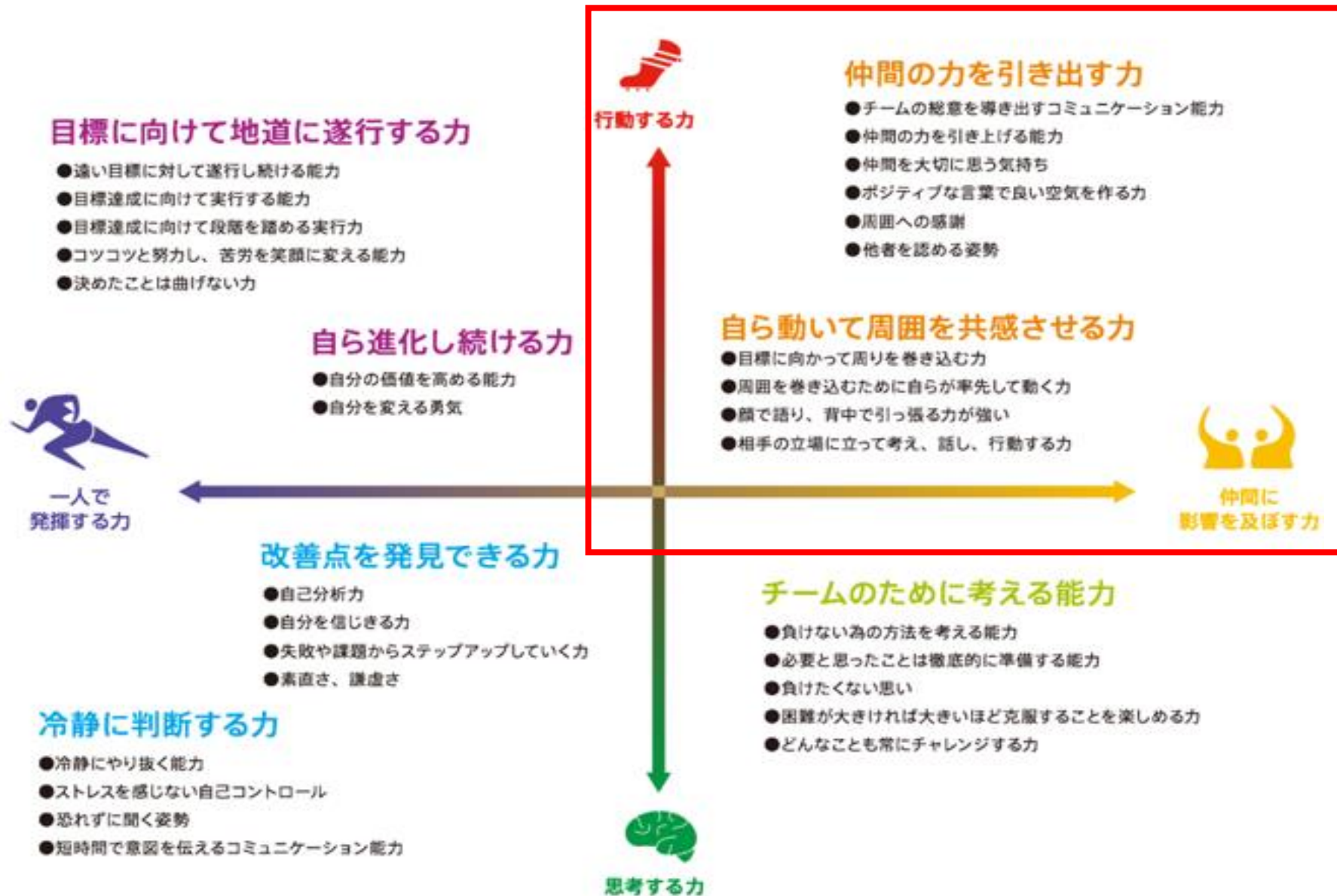
勝ち (Victory) を目指すことで  
培われ、  
価値 (Value) に繋がる選手た  
ちの能力をマップ化



## 強みの抽出

## 能力マップ

勝ち (Victory) を目指すことで  
培われ、  
価値 (Value) に繋がる選手たちの  
能力をマップ化



仲間と一緒にカタチにする（やりたいことを伴走する）

## 浦安D-Rocks

# “この指とまれ”プロジェクト



### 前提

ラグビーと社会をコネクト

主体的に課題設定、自らが考え、行動、巻き込む+情報発信

CSR、CSV

**CSA（ガジュアル ソーシャル アクション）**

# 人材成長) この指とまれプロジェクト

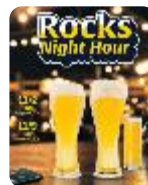
## カテゴリー プログラム

## この指を掲げたPJ



### 1 スポーツ振興

四季毎のアカデミー展開  
ファンとのファンクション  
女子チーム・マスターズ支援



### 2 生活習慣

社内・地域・スポンサー各社への  
健康増進施策の展開  
「りよんトレ」独自プログラム展開



### 3 リサイクル

選手オリジナルブランドグッズ  
資源の再利用  
マーケティング戦略構築



### 4 気候変動

GHG可視化、環境省とのデコ活推進  
人工芝（マイクロプラ）海洋流出対策  
Lead to Ocean 選手企画策の展開



### 5 多様性

障がい支援センターの児童との  
運動交流。寄付金支援  
地方（合宿先）などでも応用  
ガンへの向き合い（deleteC）



### 6 教育

戦力強化：スポーツ×ICTの実用化  
メンタルケアのインプット等  
暗黙知のデータ化

